

☆南部地区(川崎区・幸区)

- ・日時 平成27(2015)年9月19日(土) 13:00~16:30
- ・場所 川崎フロンティアビル第3・4会議室
- ・参加者数 44名



○いただいた御意見

テーマ「協働のまちづくりを進めるにあたって行政が担う役割とは？」 (1グループ・2グループ)

<1グループの御意見>

○地域内の課題等の情報共有を推進するため、

- ・町内会・自治会・商店街等地域組織の連携が必要であり、行政が仲介役・調整役となり、地域内で若い世代や新しく来た人が参加しやすいスポーツ・お祭りなどのイベントの活用や、地域活動への企業の協力を促すような取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・いこいの家やこども文化センターを地域の拠点にする
- ・若い世代や新しく来た人などの会合への参加、交流で地域組織は活性化する
- ・情報共有推進のための仕組みづくりが必要であり、個人情報取扱いのためのルールづくりや、過去と現在の課題を素早く共有するため、ICTの活用、目安箱等の設置を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・過去に発生した問題点を公開する
- ・Webサイトは他市事例を参考にする
- ・気軽に、早めに情報を共有できるようにすることが大切

○地域の提案・ニーズに対し、行政がリーダーシップを発揮してしっかりと対応するため、日常から市民とコミュニケーションをとり相互理解を深めるとともに、職員が一人で仕事をする機会を増やし、能力向上を図るなどの取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・問題を解決できたらボーナスを支給
- ・地域の提案を受けた場合に、進捗を共有し回答を明確化する
- ・日常からコミュニケーションをとり、市民に行政の考えを伝えてほしい
- ・市民は、区民会議や車座集会を通じて地域ニーズを区に伝える

○地域のまちづくりには、アウトソーシングなど専門家のノウハウを活かす必要があることから、産学界と協働し、よりよい方向性を模索してはどうか。また、合わせて、行財政改革やまちづくりのよりよい方向性も模索してはどうか。

【関連する御意見】

- ・行政の得意分野と不得意分野をはっきりさせる

＜2グループの御意見＞

○多様な世代・立場の人が出会い、話せる場づくりを行うため、普段地域と関わりのない人、働いている人でも参加しやすいイベント、幅広い年代の人が集まる場やイベントなどの企画運営、区民会議などの傍聴の広報を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・既存のイベントに協働テーマを入れる
- ・排他的なイベントや場づくりは行わない
- ・高齢者と子育て世代が交流できるよう、保育園などの児童施設をドッキングさせた施設をつくる
- ・イベントについて、「難しそう」という意識を持たれないようにする

○市民も職員もコミュニケーション力が必要であることから、学生を対象に大人と交流する会議やOJT講座で「言葉遣い」「会話術」を学び、実際に多世代や外国の方と話す「体験」を通じてコミュニケーション力をつける取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・川崎市国際交流センターなどの外国人交流団体と連携して、外国人への住民サービスを進めていく

○市民と行政との間で情報共有を推進するため、個人情報管理のルールづくりや、市民と行政が情報交換できるサイトの開設、行政のチラシの活用による情報発信といった取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・高齢化問題、福祉、医療に関する的確な情報提供が早急な課題
- ・情報の中には、行政にしか発信できないものがある

○活動団体同士が現場で協力する必要があることから、各団体・行政が協力して会合や企画を行い、互いの強み・弱みを把握するとともに、行政が地域コーディネーターを設置し、区レベルでの改革カフェなども通じ、団体の互いの強みを活かし、共に身近な問題から解決してはどうか。

【関連する御意見】

- ・高齢化社会において、協働によるまちづくりでは市民活動団体、市民、行政がもっと協力して会合や企画を行うべき
- ・会合などでは人が集まるだけで満足するのではなく、次のことを考え準備していかなければならない

○行政は協働の各主体をつなぎ、協力しやすくする役割があることから、職員のコーディネート力を高めるため、人材育成として、他の職場での研修受講や、職員本人が望む職場への期間限定の異動が行える仕組みをつくるなど、他の職場を経験しやすい文化を作ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・人材の育成とノウハウの蓄積、継承が重要

テーマ 「どんな区役所になったらもっとよくなる？」 (3グループ・4グループ)

<3グループの御意見>

○町内会・自治会など地域の組織を開かれた場にするために、区役所での呼びかけなど町内会・自治会への入会のバックアップ、地域のイベント情報の収集・スマートフォンなどを活用した発信といった取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・町内会・自治会に加入するよう、転入届を提出する際に案内するなど、行政の各部署が連携してサポートできるようにする
- ・若者への情報発信として、掲示板の活用を工夫する
- ・区役所が町内会・自治会等の活動の情報を集約して発信する役割を持つ
- ・区役所が様々な地域の組織のハブになる役割を持てるようにする

○区役所に普段訪れない人に来てもらい、人と人がつながる区役所となるために、朝市や市民活動団体の文化祭などの地域イベントの企画・開催、職員が対応するカフェルームの設置など、人が集まる機会を増やす取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・市内の様々な市民活動団体の紹介を兼ねた文化祭（カフェ、交流会）の実施
- ・区としてイベント等を企画する場合は、様々な団体を集める場を持つようにする
- ・Free Wi-fi の導入
- ・トイレをきれいにする
- ・若者が好きなデザインの導入など、庁舎の効果的な改修の実施
- ・会議室を開放し、地域の組織が使えるようにする

○専門的な知識を持ち、市民に信頼されるような職員が必要であるため、地域のニーズを知るため職員が現場に行く取組や、専門スキル・コミュニケーション力を持つ人を任期付きでスカウトする取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・専門性を重視した人事を行う
- ・一律に人事異動するのではなく、部署ごとに異動のサイクルを変える

○区役所の役割を市民に詳しく知ってもらうために、その役割を伝えるコンシェルジュの設置、区役所の社会科見学により、区役所の見える化をしてはどうか。

【関連する御意見】

- ・窓口の待ち時間を短く感じさせる工夫が必要
- ・高齢者の多様性に対応する

< 4 グループの御意見 >

○区役所が気軽に、待たずに相談できる場所となるために、SNS など様々な媒体を活用し区役所の仕事の内容などを PR することや、よく市役所に来る人から誘ってもらうことで垣根や敷居をなくすとともに、待たずに相談を受けられる優先チケットや予約制を設けることで待ち時間短縮を図る取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・個室型の相談スペースを設置
- ・きれいで授乳などができる休憩場所とトイレの設置
- ・子どもの遊び場の設置
- ・大学生のアルバイトや区役所でのインターン制度（事務職、保育、入口案内など）の実施
- ・コンシェルジュ機能の活用
- ・制度や地域の情報に詳しい区役所 OB の活用
- ・窓口をひらがなで書いておくようにする

○地域が持つ良さを広めることや、企業と市民の相互交流のために、企業と市民のマッチングや、大学・企業・市の共催事業を増やすなどの取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・市民や企業などとのマッチングを行う部署を設置し PR する
- ・企業と市民の間に区役所がたって安心感、信用を与える役割を持つ
- ・地域のキーパーソンとなる「ソーシャルサポーター」を養成、増やしていく
- ・川崎市にたくさんある地元物産や「ゆるキャラ」をもっと PR する

テーマ「まちづくりを進めるにあたってどんな力を持った市民や市職員が必要？」（5グループ・6グループ）

<5グループの御意見>

○学校と地域と企業のつながりが必要であるため、学生ボランティアによる地域への出前講座の実施、学校を開放して企業や地域の人を招待したイベントの実施、商産学共同の定期フェスタの開催など、各主体が互いにオープンな場を作ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・学校スポーツによる市民との交流、学生による市民へのスポーツ指導、運動会の活用
- ・地域のお祭りへの大学の出店、企業の招待
- ・企業の食堂を市民に開放

○地域活動がスムーズに進むよう、市民が市民同士をコーディネートできる力が必要であるため、市民がアルバイトなどで区役所の案内係を担うことや、市民へのリーダーシップ養成講座を実施してはどうか。

【関連する御意見】

- ・市民が行いたいことについて、その専門家をコーディネートしてもらえるようにする

○市民と職員がお互いに考え、気配りできる力が必要であるため、課題やテーマを設定して話し合える、交流しやすい場づくりを更に行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・行政何でも相談センターを開設する（定年退職したシニアの活用）
- ・行政主体の催し物をさらに増やす

○高い専門的能力を持った職員が必要であるため、SNSを活用しながら、企業など外部から知識を持った人材を呼ぶことで知識蓄積を図ることや、外国語への対応など、専門能力開発の研修制度を構築する取組を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・平均5日以上専門能力開発を行う職員研修制度をつくる
- ・研修に参加することで給料が上がる仕組みをつくる
- ・市内企業の社員を採用し、市の職員の知識を高める

<6 グループの御意見>

○発想力や専門性を持った職員が必要であるため、人事異動の間隔を4～5年に延ばすことや、一方で、若い人は様々な業務に触れられるような異動を行うなど、柔軟な人事制度を設けてはどうか。

【関連する御意見】

- ・同系統の部署への人事異動を実施
- ・人事異動があっても担当を総入れ替えすることはしない
- ・上司の育成力、職員からのアイデアをつぶさない姿勢が大切

○地域での住民同士のつながりが必要であるため、清掃活動や公園体操などへの住民同士の参加の呼びかけや、地域への理解を深め、一緒につなぎづくりに関われるようになるため、区職員が町内会・自治会への参加をしてはどうか。

【関連する御意見】

- ・挨拶し合える関係づくりが大切
- ・行政側からの町内会・自治会へのお願い事を限定する

○職員と市民がお互いに助け合う関係づくりが必要であるため、市民参加型カフェの定例化などによるお互いが顔を合わせる場の設定や、お互いが手伝ってほしいことをリスト化することによる情報共有、各地区の特色を職員が理解することで地域に関わりやすくなるため、地区対抗での魅力アピール合戦を行ってはどうか。

【関連する御意見】

- ・職員の退職セミナーで町内会・自治会を紹介する
- ・子ども向け、高齢者向けのイベントを増やす
- ・退職者で町内会・自治会活動をやっているという人の情報を町内会・自治会に提供する